

< 総説 >

文献にみるわが国の看護領域における 療養病床の現状と課題

Present Situation and The Problem of Long-Term Care Wards in Nursing Domain in Literature

大儀律子¹, 根木香代子¹, 原 華代¹, 新井 龍¹, 坂口桃子¹

Ritsuko OGI, Kayoko NEGI, Hanayo HARA, Ryu ARAI, Momoko SAKAGUCHI

1 常葉大学健康科学部看護学科

Department of Nursing, Faculty of Health Science, Tokoha University

【要 旨】

本研究の目的は、療養病床の現状とその課題に関する研究の動向を整理し、療養病床の役割と今後の課題について明確にすることである。文献は、医学中央雑誌 Web 版を使用し、「療養病床」「管理」「看護」をキーワードとし、目的に合致した 35 文献について検討した。その結果、療養病床の現状とその課題についての研究の動向は、施策による療養病床削減策に対して増加しており、2014 年の診療報酬改定で導入された地域包括ケアシステムに関連して突出していた。これは、療養病床は地域包括ケア体制構築のための重要な地域の役割を担っていることがわかった。今後の課題は、①療養病床の入院患者の重症度が正しく理解されること、②療養病床が地域連携体制の核となるような診療報酬上の配慮が必要であること、③施策による入院医療の再編を受け、看護管理者は組織の課題を明確にし、課題解決を担える人材の育成に取り組む必要があることが見いだされた。

Key Words : 療養病床, 管理, 看護

キーワード : Long-term care wards, management, nurse

1. はじめに

わが国では、長期入院療養を必要とする高齢者の受け入れ先について、1983年に特例許可老人病院の制度化、1993年には療養型病床群の創設を行い、それに合わせた診療報酬上の評価を行ってきた。2000年の介護保険制度導入では、介護療養型から医療施設として介護療養と、引き続き医療保険からの支

払いを受ける医療療養に分かれ、2001年の医療法改正により療養病床が創設された。ところが、その後に行われた実態調査で両者の入院患者の背景に差が見られなかった¹⁾ため、2011年度末での介護療養病床の廃止が決定した。しかし、廃止・転換は思うように進まず、一旦は2017年度末に期限延長されたが、その後の実態調査を受けて招集された「療養病床の在り方に関する特別部会」での

議論を経て、「地域包括システム強化のための介護保険法等の一部を改正する法律（2017年法律第52号）により、慢性期の医療・介護ニーズへの対応のための介護医療院が創設されるとともに、介護療養病床等の廃止が6年間延長となった。

さらに、2015年から都道府県において、将来の医療提供体制の姿を示す「地域医療構想」の策定が開始されている。これは、医療機関が4つの類型の医療機能（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）から選択し2025年のあるべき病床数を推計し、その実現にむけた取り組みを推進していくことである。その中で、慢性期を担う療養病床の大幅な削減が計画されている。この計画は、医療区分1の70%が入院以外で対応可能であり、療養病床入院受療率の地域差を2025年度までに縮小するという前提で行われている²⁾。

しかし、この「地域医療構想」では療養病床の不足分について在宅医療を推進しているものの、超高齢化の中で、現在、療養病床で治療を受けている高齢患者が療養病床以外でケアを受けることができるのか、利用者となった患者に対して、医療の供給量は成り立つのかという疑問が残る。

このような療養病床を取り巻く大きな動きの中で、目まぐるしく変化する介護制度や施策に翻弄されながらケアを提供する療養病床に焦点を当て、慢性的な人材不足で比較的年齢層が高く、教育背景も多様でありケア方法に関して消極的である職員に対して、人材確保やモチベーションがあがる職場環境の整備という看護管理上の問題を把握することの必要性があると考えた。

なお、看護師と介護職の役割に関する度重なる法改正では、医療と介護の一体提供を謳いながら、療養病床を医療療養病床と介護療養病床にはっきりと区別し、後者を医療から切り離し、介護施設として明確化する動きが強まっている。しかし、医療療養病床といえ

ども、介護ニーズのまったくない患者は存在しない。現場の感覚とすれば、医療保険適用か介護保険適用かという区分に係らないことから、本研究では検討対象を療養病床とした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、療養病床の現状とその課題に関する研究の動向を施策・看護の視点から整理し、療養病床の役割と今後の課題について明確にすることである。

3. 研究方法

本研究は、先行研究^{3) 4)}を参考に以下の手順とした。

3.1. 用語の定義

療養病床：2018年度診療報酬改定にて、療養病床は長期療養区分となり、従来の看護配置20対1と25対1が統合となった。本研究では2001年医療法改正以降の「医療療養病床」と「介護療養病床」とし、「主として長期にわたり療養を必要とする患者を入院させるための病床」とする。

3.2. 文献検索方法

データ収集のためのデータベースは医学中央雑誌Web版 Ver. 5とした。対象期間は、医療法改正で「療養病床」が創設された2001年1月から2017年12月とした。「療養病床」「管理」「看護」をキーワードとし検索すると51件の原著論文が得られたが、患者ケアに関するものが半数近く見られたため、文献キーワードを「療養病床」and「管理」として検索を行った。

3.3. 分析方法

1) 文献の整理・分類と研究動向を把握する

ために、研究論文の「発表年」「著者と所属先」「論文テーマ」「研究目的」「研究方法」「結果」を端的に記述した文献カードを作成した。カード作成時には、倫理的配慮に沿って研究がなされているか、目的と結果は一致しているかを確認した。

- 2) 文献カードの概要から先行研究の動向を施策と関連づけ、療養病床の現状や問題点を論述している度合いが把握できるよう、「研究数と年次推移」「研究内容」で整理し、検討した。
- 3) 研究内容から、前述した先行研究^{3) 4)}を参考に「診療報酬と看護ケアの実態」「ワーク・モチベーションとキャリア支援」「医療安全とリスクマネジメント」の3項目について、論点を整理した。

3.4. 倫理的配慮

文献の著作権を侵害することがないように留意し、引用は原則として原文を用いた。

4. 研究結果

文献キーワードを「療養病床」and「管理」とした結果、81件の原著論文が得られた。このうち看護管理に当てはまらないものとして、疾患関連20件、薬剤業務や医療安全教育に関して特化したもの8件、感染15件、褥瘡7件など該当しないものを削除し、さらに患者職員間の信頼関係などの本研究に該当しないもの6件を除くと25件であった。また、

療養病床と看護管理に言及した10文献を含め、最終的に35件の文献について検討した。

4.1. 療養病床に関する研究の動向

発行文献の年次推移を図1に示した。

療養病床と管理に関しての研究は、2004年に2件、2006年度の診療報酬・介護報酬の同時改定時に医療療養に対して医療区分・ADL区分による診療報酬上の評価の導入と介護保険病床の2011年度廃止が決定された翌年2007年は2件であった。この年に併せて医療法についても療養病床の看護師及び准看護師の人員配置基準が6対1から4対1以上に引き上げられた。以後2009年5件、翌年2010年3件と続き、2011年介護保険法改正において、介護保険病床の廃止・転換の2017年末までの延長決定された翌年の2012年以降毎年発表されていた。中でも、2013年4件、2014年の8件は、「地域における医療および介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」が成立し、地域包括ケアシステムの構築と病床機能報告の運用が開始され、療養病床は慢性期を担うものとして位置づけられた年である。そして、2017年の「地域包括ケアシステム強化のための介護保険法の一部改正法」により介護医療院創設や介護療養病床がさらに6年延長となった年は5件と目立っていた。

研究方法は量的研究が28件と質的研究7件を圧倒的に上回っていた。

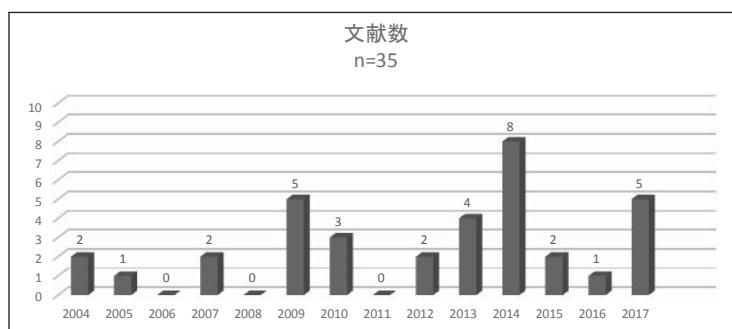


図1 発行文献の年次推移

4.2. 研究内容の分類

研究内容から、「診療報酬と看護ケアの実態」「ワーク・モチベーションとキャリア支援」「医療安全とリスクマネジメント」の3項目について、論点を整理した。研究内容を分類した結果を表1に示す。「診療報酬と看

護ケアの実態」が19件、「ワーク・モチベーションとキャリア支援」が10件、「医療安全とリスクマネジメント」が6件であった。

なお、文献の説明について、[番号]で示す数字は巻末に示した文献番号である。

表1 内容の分類

分類	内容	文献数	文献番号
1	診療報酬と看護ケアの実態	19	1,5,6,7,8,9,10,11,12,13,18,20,23,24,27 29,30,31,35
2	ワーク・モチベーションと キャリア支援	10	3,14,15,16,19,22,28,32,33,34
3	医療安全と リスクマネジメント	6	2,4,17,21,25,26,

4.2.1. 診療報酬と看護ケアの実態

療養病床削減策が診療報酬に与える影響を示したものは[11]であり、改善例としては、地域医療連携の職員が病床管理回診に同行することで、病床回転率が改善されたもの[5]、医療・介護保険制度改正に対応して入院患者の給食経営管理を見直すことができた事例[6]があった。また、問題提起としては、後期高齢者の入院医療費の地域差に医療費要素が与える影響を示したもの[30]や、療養病床再編に伴い、長期療養高齢者の課題及び高齢者医療の必要性と人材育成の状況を明らかにしたもの[9]、医療制度改革における看護ケアの変化[12]や看護師や医療従事者の業務に関する認識とストレス対処力との関連[13]を示すものであった。

看護ケアを示したものは、療養病床における看護ケア全体の実施状況[10]から緩和ケアの実態[31]、口腔ケア[8]清潔ケア[29][18]、褥瘡[7][20]内服管理[24]であった。また他病床から療養病床に転入となった患者に対してのケアに対する文献[1][23]や療養病床での看護活動の在り方[27][10]、患者家族による看護活動への理解の

必要性も示されていた[35]。

4.2.2. ワーク・モチベーションとキャリア支援について

療養病床に勤務する看護職の職務満足に関するもの[15][19][22]や、仕事に対するモチベーションと管理者に対する期待[32][33]が示されていた。また一般病棟から療養病床へ異動になった看護師の体験[28]も示していた。

キャリア支援に関しては、一般病院との比較[16]やキャリアアイデンティティが管理上の有用な指標となるかを検討したもの[3]、臨床看護師の学習ニードと環境要因[14]や看護師育成のための管理者が捉える現状と課題[34]が示されていた。

4.2.3. 医療安全とリスクマネジメント

患者誤認防止のリストバンド装着に関して限定したもの[26]、身体拘束や転倒・転落に関するもの[2][4]や感染管理に関する管理者への実態調査[17]があった。また医療安全の病院で取り組みの実態調査[21][25]が示されていた。

5. 考察

5.1. 療養病床の現状とその課題についての研究の動向

「療養型病床群」は、「介護療養病床」と「医療療養病床」に分けて、それぞれの保険制度に基づいて運営・管理されている。しかし、両病床に入院する患者はいずれも高齢の慢性疾患罹患患者である。これは、実態調査でも両者の入院患者の背景に差がみられなかったことから明らかである⁵⁾。その軽量の度合い（重症度）はともかく、2000年の介護保険制度発足時に厚生労働省はこの両保険病床それぞれの運営に対する理念や目的を明確にはしていなかった。そして、療養病床の廃止が2011年度末で決定となったが⁶⁾、廃止・転換は思うように進まず、期限は一旦2017年度末に延長となった。

転換がうまくいかなかった背景には、日常的な医学管理が必要な重介護者や看取り・終末期医療を必要とする人[31]の受け皿不足⁷⁾が考えられる。特に人口密度の低い地域は顕著であった[9]。そこで、介護療養病床が担ってきた役割に「生活施設」機能を付加⁸⁾し、地域の実情に合わせて慢性期医療や介護の需要に応えようと考え出されたのが「介護医療院」であると考えられる。

5.2. 診療報酬と看護ケアの実態

実施された実態調査においては、上述しているように、医療療養病床と介護療養病床とで医療の必要性の高い者と低い者が混在し、医療保険と介護保険の役割分担が課題となったことが背景となって、実際に診療報酬点数にも現れていた⁹⁾。

2016年診療報酬改定においては、入院に係る診療報酬体系全体が見直される中で、病床機能ごとの患者像に応じた入院医療の評価についても一定の見直しが行われた¹⁰⁾。

この中で、療養病床入院基本料における評

価体系については、現行の医療区分およびADL区分では重篤な患者や手間のかかる患者に対する十分な報酬の上の評価がなされていないという指摘もあり¹¹⁾、今後もさらに患者の状況を反映した精緻な報酬体系を目指すべきである。

確かに、わが国の入院受療率には大きな地域差があり[30]、改善すべき点があることは否めない。しかし、それは医療全体の提供体制には社会的・地域的な差があり[11]、療養病床の存在を否定するものではないと考える。複数の慢性疾患や認知症を持つ高齢患者の入院治療[8][24][35]や看取りを療養病床以外で確保すること¹²⁾は困難であるだろう。

問題であると考えるのは、療養病床が持つ「地域の慢性期医療や介護を核とした複合的なケアの拠点役割」を十分に発揮することができない現在の診療報酬体系にある[13]。具体的に言えば、療養病床の看護活動の在り方[10][18][27][29]や他の医療機関との連携が原則として認められておらず、それを行えば減算対象となることである。これは、他病床から療養病床に転入となった患者に対してのケアに対する文献[1][23]でも職員が戸惑いを示していることから明確である。地域の療養病床を拠点として、複雑な疾患や介護のニーズを持つ高齢患者に対し、難病や神経内科のような個々に必要な専門的な医療を後付けで在宅と連携する形で受けることが出来れば、療養病床が在宅医療との連続性をもって地域包括ケアの拠点となることが可能である。特に、医療や介護の資源が不足している地域では、こうした療養病床を持つ病院に訪問看護・介護ステーションなどを併設することが、地域包括ケアのネットワーク構築のための現実的な対応になると考える。

療養病床は、地域包括ケアの体制を実現する上で重要な地域にとっての資源である。その意義が認められ、地域医療構想や地域包括

ケアに反映されることを望む。

5.3. ワーク・モチベーションとキャリア支援について

療養病床の入院患者は認知症等で意思の疎通が困難な寝たきりの高齢者が多数を占めている。このような現状の中で働く職員の年齢層は比較的高く、職種によっては学歴やその教育背景も多様である [14]。療養病床に入院している患者は、全身状態の急激な悪化は少ないが、顕著な回復も見られない。文献からも療養病床へ異動となった看護師は職場に対してマイナスイメージを抱いていた [19] [22] [28]。このような状況下でのキャリア成熟には、進む方向を自己で切り開いていくことが必要となるであろう [16] が、職員は一般病棟の職員に比べて新しい知識の習得や当該分野の看護実践能力のさらなる洗練を図ることには消極的であった。

看護職と介護職の仕事に関する調査では、介護職が看護職よりも利用者との関わりを通じて仕事のモチベーションが上がるという報告¹³⁾があり、外来看護師の仕事のモチベーションの向上には、患者との関わりや自己実現などが影響していることが明らかになっている¹⁴⁾。また、看護の仕事がスムーズに進んでいるときや患者や上司などに褒められた時も同様であった¹⁵⁾。さらに、モチベーション理論に基づき職員の満足と不満足の要因を調査した研究¹⁶⁾では、全年代での看護師の仕事における満足要因は「承認」「達成」が上位を占め、「承認」の不満足と「仕事自体」への満足は、ベテランの看護師で高値であった。

日本看護協会が「2017年病院看護実態調査」¹⁷⁾を実施した結果によると、2025年に向け、自院が役割を果たすための看護管理上の課題として、「病院の役割に即した人材育成」が78.1%と最も多く、次いで「看護職員のモチベーションの維持」の71.4%となっていた。このように将来的な自院の役

割を見据え、人材育成に課題を抱えている看護管理者が多い。超高齢社会における医療・福祉政策の過渡期は、所属組織を取り巻く内外環境が変化している時である。看護管理者には自院の組織分析に立脚した課題の明確化とその課題を着実に解決する看護管理の技量が求められる。同時に、変化の時代を担う人材の育成が急務である。看護職員のワーク・モチベーションに関わる要因を個人と組織の両面から調査していくことが今後の検討課題と言える。

5.4. 医療安全とリスクマネジメント

診療報酬改定のたびに見直される「重症度、医療・看護必要度」は2018年度の診療報酬改定でも評価項目や該当患者の基準が一部見直しとなった。

「診療・療養上の指示が通じる」「危険行動」の基準の追加は、高齢化に伴って一般病棟でも増加している認知症やせん妄のある患者への対応をより評価する狙いがあると考えられる。本研究でも2004年では拘束時の判断 [2]、2007年転倒転落要因の分析 [4]、そして感染対策 [17] や2014年には重大な医療事故や医療安全管理者の配置等と実態調査 [21] [25] [26] へと医療安全に対し重みを増している。本来、2016年度改定で新しく加えられた評価項目であり、認知症・せん妄への対応を一步進めた形である。逆に重症患者の割合に関する基準はやや引き上げられている。

厚生労働省の調査¹⁸⁾によると、急性期病院で認知症のある患者は約13%である。このうち、BPSD（認知症による行動・心理症状）が見られる患者は40%に上り、せん妄症状（術後以外）も2.7%の患者で確認されている。つまり、認知症やBPSD、せん妄の症状がある入院患者は症状のない患者と比較して、より密度の高い医療・ケアを必要としていることが理解できる。

2018年の診療報酬改定では、看護師の負担軽減対策が加わった「身体拘束の要件」が新たに追加され、夜勤看護師や看護補助者を手厚く配置する病院に対する評価が充実されている。これは、前回の改定での予想した効果が得られなかったためであると考えられる。

6. 研究の限界

本研究はわが国における看護領域における療養病床の現状と課題を整理した。社会保障の枠組みの転換期の今、療養病床の役割は目まぐるしく変化しており、医療療養病床と廃止が予定されている介護療養病床との現状や問題は異なる可能性がある。

7. 結論

文献検討により、看護領域における療養病床の役割と今後の課題について以下のことが明らかになった。

- 1) 療養病床の現状とその課題についての研究の動向は施策による療養病床削減策に対して増加していた。特に2014年は診療報酬改定で導入された地域包括ケアシステムに関連して文献数は突出していた。
- 2) 療養病床は地域包括ケア体制構築のための重要な役割を担っている。
- 3) 療養病床の入院患者の重症度は正しく理解される必要がある。
- 4) 療養病床が地域の連携体制の核となるような診療報酬上の配慮が必要である。
- 5) 施策による入院医療の再編を受け、看護管理者は組織の課題を明確にし、課題解決を担える人材育成に取り組む必要がある。

分析対象文献

[1] 宮村季浩, 飯島純夫: 医師による看護活動への理解の必要性. 山梨大学看護学会誌, 2-2: 33 ~ 35, 2004

- [2] 大田節, 門田季香, 石黒英子 他: 療養病床における身体拘束時の判断. 高知女子大学看護学会誌, 30-1: 30 ~ 31, 2004
- [3] 武村雪絵: 療養病床の看護職員・介護職員のキャリアアイデンティティの測定. 医療と社会, 14-4: 83 ~ 98, 2005
- [4] 松村瞳, 大崎清美, 松富知子 他: 宇部リハビリテーション病院における安全対策への取り組み 転倒・転落要因の分析. 日本医療マネジメント学会雑誌, 8-3: 458 ~ 462, 2007
- [5] 小林紀子, 淵野泰秀: 地域医療連携課としての病床管理回診の取り組み. 日本医療マネジメント学会雑誌, 8-2: 330 ~ 334, 2007
- [6] 井澤幸子, 村松英子: 医療・介護保険制度改正に対応する給食経営管理. 収支実態からの検討, 栄養学雑誌, 67-6: 350 ~ 354, 2009
- [7] 安田眞理, 野宮恵子, 佐藤明美 他: 長期療養病棟における褥瘡管理について 褥瘡の治癒過程と栄養状態について. 栄養・評価と治療, 26-6: 472 ~ 478, 2009
- [8] 吉井忍, 安田智美, 道券夕紀子: 富山県下における療養場所別にみた褥瘡患者の特徴. 富山大学看護学会誌, 9-1: 41 ~ 52, 2009
- [9] 高橋龍太郎, 笥佐織: 療養病床再編の行方 長期療養高齢者と高齢者医療を担う医師の役割. 日本老年医学会雑誌, 46-2: 134 ~ 136, 2009
- [10] 山内加絵, 長畑多代, 白井みどり 他: 介護保険施設における看護ケアの実施状況および研修ニーズに関する実態調査. 大阪府立大学看護学部紀要, 15-1: 31 ~ 42, 2009
- [11] 横川正平, 二木立: 地方分権の進展が医療費適正化計画の療養病床削減策に与えた影響に関する研究. 日本医療・病院管理学会誌, 47-3: 137 ~ 144, 2010

- [12] 益加代子, 林千冬: 医療制度改革下の医療療養病床における看護労働の変化と課題 (第1報) 平成18年度診療情報改定による影響に関するインタビュー調査から. 神戸市看護大学紀要, 14: 55~62, 2010
- [13] 望月宗一郎, 小澤結香, 村松照美 他: 介護療養型医療施設の退院調整に携わる看護師・医療ソーシャルワーカーの業務に関する認識とストレス対処力(SOC)との関連. 山梨大学看護学会誌, 8-2: 21~29, 2010
- [14] 高橋甲枝, 清村紀子, 梶原江美 他: 臨床看護師の学習ニーズと個人要因および環境要因との関連. 日本看護科学会誌, 32-2: 34~43, 2012
- [15] 播磨弘子, 生野繁子: 療養病床に勤務する看護職の職務満足と属性との関連. 日本看護学会論文集(看護管理), 42: 416~419, 2012
- [16] 岡島恵子, 水野由子: 一般病院と療養型病院に勤務する看護職員の性格特性と職業キャリア成熟度との関連. 看護管理, 23-12: 1044~1049, 2013
- [17] 多久島寛孝, 山本勝則, 徳澄享佳 他: 高齢者介護施設における感染管理 管理者への実態調査. 保健科学研究誌, 10: 23~34, 2013
- [18] 橋本智江: 介護保険施設における入浴ケア実施時間帯の実態調査. 日本温泉気候物理医学会雑誌, 76-2: 117~123, 2013
- [19] 新谷美智子, 中原敦子, 藤野柴代 他: 療養病棟に勤務する看護職者の働き甲斐に対する意識調査. 日本看護学会論文集 老年看護, 43:114~117, 2013
- [20] 村松真澄, 守屋信吾: 全国の介護施設における口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査. 老年歯科医学, 29-2:66~76, 2014
- [21] 吉田愛, 藤田茂, 伊藤慎也 他: 重大な医療事故の経験と病院の医療安全体制及び活動. 日本医療マネジメント学会誌, 15-2: 81~86, 2014
- [22] 柳楽美穂, 熊谷美奈子: 精神科療養病棟スタッフがやりがいをもって働くための一考察 スタッフの意識調査から. 日本精神科看護学術集会誌, 57-1: 572~573, 2014
- [23] 宗木優果, 和田誠, 谷脇貴美子: 精神科急性期病棟から療養病床へ転棟してきた患者に対する看護介入の現状. 日本精神科看護学術集会誌, 57-1: 528~529, 2014
- [24] 真木健一, 芦田美野梨: 療養病床における自己服薬の継続理由を考察する 長期入院患者の自己服薬に関する思いより. 日本精神科看護学術集会誌, 57-1: 480~481, 2014
- [25] 伊藤慎也, 藤田茂, 北澤健文 他: 病院における医療安全管理体制整備の状況と課題 2004年調査と2011年調査に比較検討から. 日本医療マネジメント学会雑誌, 15-1: 2~8, 2014
- [26] 勝又知恵美, 滝口明子: 療養病棟におけるリストバンド装着に対する患者の思い. 日本看護学会論文集 老年看護, 44: 43~46, 2014
- [27] 古川直美, 坪井佳子, 浅井恵理 他: 医療療養病床における看護活動の現状と課題 および教育支援のあり方. 岐阜県立看護大学紀要, 14-1: 121~130, 2014
- [28] 磯倉聡恵, 小林ひとみ, 深谷努 他: 一般病棟から療養病床へ異動になった看護師の体験. 日本看護学会論文集 看護管理, 45: 355~357, 2015
- [29] 土田敏恵, 萩野待子, 濱元佳江: 感染防止の視点から捉えた陰部洗浄の実態 病院・介護福祉施設を対象とした大規模全国調査から. 日本環境感染学会誌, 30-1: 117~126, 2015
- [30] 安井みどり, 前田俊樹, 原野由美 他: レセプトデータによる後期高齢者の入院医療費の分析. 日本医療・病院管理学会誌,

53-4 : 207 ~ 216, 2016

[31] 村上真基, 大石恵子, 綿貫成明 他 : 緩和ケア病棟を併設している療養病棟における緩和ケアの実態調査. *Palliative Care Research*, 12-1 : 101 ~ 107, 2017

[32] 木内千晶 : 療養病床に勤務する看護職の職務関与の構造分析. *日本農村医学会雑誌*, 66-1 : 9 ~ 20, 2017

[33] 佐藤辰也, 木浪智佳子 : 医療型療養病床の職員の仕事に対するモチベーションと看護師長に期待する役割. *北海道医療大学看護福祉学部学会誌*, 13-1 : 9 ~ 14, 2017

[34] 牛久保美津子, 近藤浩子, 塚越徳子 他 : 退院後の暮らしを見据えた病院看護師育成のための現状と課題 病院管理者等へのグループインタビューから. *日本プライマリ・ケア連合学会誌*, 40-2 : 67 ~ 72, 2017

[35] 井手訓, 川村三希子, 竹生礼子 他 : 療養病床においてがんを併せもつ高齢認知症患者への看護 入院拒否判断 ケア状況 ケア困難度に焦点を当てて. *死の臨床*, 40-1 : 179 ~ 184, 2017

引用文献

1) 池崎澄江, 池上直己 : 療養病床における保険種別と一般病棟の有無による相違 - 包括評価導入前の実態 -. *日本医療・病院管理学会誌*, 45-1 : 29 ~ 35, 2008

2) 戸次鎮史, 村松佳司, 松田晋哉 : 療養病床の役割と今後の課題. *病院*, 75-11 : 858 ~ 862, 医学書院, 東京, 2016

3) 釜屋洋子, 關優美子, 森山恵美 他 : 介護老人施設で働く看護師の業務と役割に関する文献検討. *日本看護学会論文集 看護管理*, 48 : 11-14, 2018

4) 佐藤知枝, 岩脇陽子 : 病棟における看護師間に生じる相互作用に関する文献検討. *京都府立医科大学看護学科紀要*, 27 : 15-22, 2017

5) 西本真弓, 吉田あつし : 医療療養病床と介護療養病床の選択要因 - ある療養病床を有する病院の事例から -. *医療と社会*, 19-3 : 221 ~ 233, 2009

6) 厚生労働省 : 健康保険法等の一部を改正する法律について, <https://www.mhlw.go.jp/bunya/shakaihoshoh/iryouseido01/pdf/hoken83a.pdf>, アクセス2018年8月20日

7) 横島啓子, 阿部ケエ子, 中村真理子 他 : 「医療保険療養病床」と「介護療養型医療施設」における看護業務実態・施設機能と看護業務の関係 -. *東海大学医療技術短期大学総合看護研究論文集*, 13 : 44 ~ 45, 2004

8) 藤森敏夫 : 新設される介護医療院 - 医療・介護療養病床の転換と在宅医療へのつながりを -. *生活福祉研究*, 94 : 50 ~ 57, 2017

9) 高橋泰 : 第3章療養病床再編と在宅医療. *医療白書2008年度版*, 83 ~ 87, 日本医療企画, 東京, 2008

10) 厚生労働省 : 平成30年度診療報酬改定の概要, <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000198532.pdf>, 発行平成30年3月5日, アクセス平成30年8月20日

11) 富士翔子, 伊達舞, 永井悠子 他 : 療養病床における看護職と介護職の業務負担と連携における課題. *香川大学看護学雑誌*, 16-1 : 57 ~ 64, 2012

12) 渡邊千春, 栗和田直樹, 細貝知恵子 他 : 医療型療養病床での看取りにおける看護師・介護福祉士の役割. *Palliative Care Research*, 11-1:311 ~ 315, 2016

13) 西川圭子, 中島三由美 : 看護師と生活支援職員の仕事へのモチベーションとモチベーションを高める方法の比較 - 重症心身障害児(者)施設に勤務する病棟職員施設に勤務する病棟職員施設に勤務する病棟職員の比較について -. *日本看護学会論文集*

看護総合, 43 : 175 ~ 178, 2013

- 14) 剣持知恵, 松原昌美, 安森由美 他 : 外来看護師の仕事に対するモチベーションの向上に影響する経験・インタビューを用いて - . 日本看護学会論文集 看護総合, 44 : 240 ~ 243, 2014
- 15) 大田佐織, 小泉綾子, 山本富美代 他 : 看護師のモチベーションに対する一考察 - ワークモチベーションを上げる為の要因調査 - . 日本看護学会論文集 看護総合, 43 : 171-174, 2013
- 16) 青木真理, 椿根知子, 大山砂美 他 : 看護師の満足・不満足に影響を及ぼす要因. 日本看護学会論文集 看護管理, 43 : 131 ~ 134, 2013
- 17) 公益社団法人 日本看護協会 広報部 : 「2017年病院看護管理実態調査」結果報告. 日本看護協会広報部, 2018年5月2日
- 18) 厚生労働省 : 中央社会保険協議会第373回入院医療その7, <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000185955.pdf>, 2017年11月24日, アクセス2018年8月27日